

報道発表資料の配付日時 5月31日(火) 15時00分

発表項目 (行事名)	2022年度日本生命財団「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」贈呈式		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>日本生命財団が行っている「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」の道内助成対象団体への贈呈式が開催されます。</p> <p>1 日時 令和4年(2022年)6月2日(木) 13時30分～14時30分</p> <p>2 場所 ニューオータニイン札幌 (札幌市中央区北2条西1丁目1-1 Tel(011)222-1111)</p> <p>3 出席者 公益財団法人日本生命財団理事長 甲斐 啓史 様 日本生命保険相互会社 理事札幌支社長 加藤 雅敏 様 北海道副知事 小玉 俊宏 助成対象団体代表(9団体)ほか</p> <p>4 次第 ・開会 ・日本生命財団 理事長あいさつ ・北海道 副知事あいさつ ・目録贈呈 ・助成対象団体代表者謝辞 ・閉会</p> <p>5 助成団体一覧 別添のとおり</p>		
参考	<p>・日本生命財団は、昭和54年設立時から児童・少年の健全育成を図るため、地域で活動する団体・グループに対し、その活動に要する物品に助成。 平成19年度からは高齢者の地域貢献・社会貢献活動に資金助成。 (令和4年度の道内の助成予定)</p> <p>児童・少年の健全育成 : 9団体 406万円 生き生きシニア活動顕彰 : 3団体 15万円 計421万円 ※道内累計(S54～R3) : 448団体 2億8,014万円</p>		
報道(取材)に当たってのお願い	当日、会場で取材をいただき、積極的な報道をお願いします。		
他のクラブとの関係	同時配付	:(場所)	
同時レク	:		
担当 (連絡先)	<p>主催担当者: 日本生命保険相互会社札幌支社 支社担当部長 段野 圭太 Tel 011-251-9283 道担当者: 環境生活部くらし安全局道民生活課 課長補佐 大谷 隆之 Tel(ダイヤル) (011)204-5663 内線24-156</p>		

2022年度 日本生命財団
「児童・少年の健全育成助成」「生き生きシニア活動顕彰」助成団体一覧

児童・少年：8 シニア：3 計11団体 421万円

区分	団体名 (所在地)	助成内容	助成額 (万円)	代表者	贈呈式 出席者	活動概要	摘要
児童・少年	1 恵庭リトルシニア球団 (恵庭市)	硬式野球用防球 ネット一式	60	つらもと のりみち 榎本 憲道	わたなべ たくみ 渡邊 匠 監督	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	2 星置レッドソックス スポーツ少年団 (札幌市)	野球用具一式	60	わたなべ あつし 渡辺 敦	同左	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	3 特定非営利活動法人 森のこころね (厚真町)	キャンプ用品・ 調理器具一式	32	まついば みちこ 松山 遼子	同左	自然体験や農体験等自然と親しむ活動機会を継続的に提供し、児童・少年の健全育成を行っている。 ※旧名称：青空自主保育木もれ陽の会（苫小牧市）	
	4 乙部町野球スポーツ少年団 (乙部町)	野球道具一式	60	いせ ひさおみ 伊勢 正臣	同左	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	5 比布野球少年団 (比布町)	野球道具（バッ ティングマシン）	60	うえの あさお 上野 秋雄	みやびら たけし 宮町岳志 コーチ	野球を通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	6 LUSH DANCE SCHOOL (羽幌町)	ダンス用フロア シート	39	しんや さゆり 瀧谷 紗由実	同左	ヒップホップダンスを通じて、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	7 利尻富士町スケート ボード等愛好会 (利尻富士町)	スケートボード 用具一式	60	やまざわ たけし 山澤 玉木	同左	スケートボードを通して、継続的な異年齢・異世代の交流を図り、児童・少年の健全育成を行っている。	
	8 特定非営利活動法人 みなみなプレイス (標茶町)	学習機材一式/ パソコン/プリン ター/マウス	35	かねざわ かつひろ 金澤 道博		障がいや発達に何らかの課題がある児童が放課後に安心して過ごせるよう、居場所の提供、学習支援や畑作業、運動や調理活動等体験活動を提供し、継続的に支援を行っている。	贈呈式 欠席
	計		406				
シニア	1 すまいるねっと (新十津川町)	活動表彰	5	やまもと ゆうこ 山本 裕子	同左	「ふまねっと運動※」の普及啓発を通じて、高齢者の健康増進活動に尽力している。 ※50cm四方のマスマ目でできた大きな網を床に敷き、この網を踏まないようにゆっくり慎重にあるく運動	
	2 江別市高齢者クラブ連 合会 (江別市)	活動表彰	5	にしむら よしみつ 西村 芳光	同左	「ふれあいサロン」や高齢者と子供の交流の場を設けるなど、地域づくりに尽力している。	
	3 網走市老人クラブ連合 会 (網走市)	活動表彰	5	かわさき しんいち 川崎 伸一		生活や福祉、健康問題の相談支援を担う会員「友愛会員」の養成など高齢者による高齢者支援活動に尽力している。	贈呈式 欠席
	計		15				
	合計		421				

2022年度
ニッセイ財団
児童・少年の健全育成助成の概要

未来をになう子どもたちが、心ゆたかに成長することをめざして

日本生命財団は、1979年7月の設立以来、人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを目的として活動しております。

児童・少年の健全育成には、地域社会を構成する住民や諸組織が手を携え、地域活動の一環として、子どもたちの生きる力を育てていくことが必要です。

このような活動に定期的かつ日常的に継続して取り組んでいる民間の団体・グループに対して、その活動に常時・直接必要な物品を助成しております。

おかげさまで財団設立以来44年継続して、全国1万4千を超える団体に助成

児童・少年の健全育成助成は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。

助成金額は、1団体30万円～60万円です。

助成物品は、助成対象活動を継続的に展開するためにはなくてはならない直接活用物品で、子どもたちが待ち望み、子どもたち自らが主体的・継続的に共有して活用する物品としております。

◆2022年度は、全国各地の265団体に総額1億2,878万円の助成を行います。

◆財団設立から44年の累計実績は、1万4千団体・88億円を超えております。

子どもたちの生きる力を育むさまざまな活動を応援

次のような活動を行っている団体に助成いたします。

<2022年度助成265団体の内訳>

「異年齢・異世代交流活動」	148団体
「自然と親しむ活動」	54団体
「子育て支援活動」	35団体
「療育支援活動」	22団体
「フリースクール活動」	6団体

情報誌「F u - m i」の発行

当助成が多くの方々のお役に立つことを願い、助成制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容および助成物品の活用事例などをご紹介する情報誌「F u - m i」を発行しています。

*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以上

2022年度
ニッセイ財団
生き生きシニア活動顕彰の概要

元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動に対して

わが国は少子高齢社会を迎えており、元気で活力に満ちた高齢者の地域貢献活動が注目されております。

日本生命財団では、高齢者が主体となっていく地域貢献活動を顕彰し、地域活動の輪を広げてまいります。

2007年の制度発足からこれまでに3,031団体を顕彰

生き生きシニア活動顕彰は、全国都道府県知事から推薦いただいた団体について、当財団の選考委員会・理事会にて決定いたします。

児童・少年の健全育成活動、地域づくり活動、高齢者支援活動、障がい者支援活動など的高齢者による“生き生きシニア活動”に取り組む民間の団体・グループに対して、1団体5万円の顕彰を行います。

- ◆2022年度は、全国各地の205団体に1,025万円の顕彰を行います。
- ◆2007年の制度発足からの累計実績は、3,031団体・15,155万円となっております。

さまざまな“生き生きシニア活動”を応援

次のような活動を行っている団体を顕彰いたします。

<2022年度顕彰205団体の内訳>

「地域づくり活動」	79団体（環境保護活動、健康増進活動等）
「高齢者支援活動」	70団体（高齢者向けサロン、訪問ボランティア等）
「児童・少年の健全育成活動」	45団体（登下校時見守り活動、伝承芸能の継承等）
「障がい者支援活動」	11団体（手話・点訳・朗読ボランティア活動等）

情報誌「Fumi」の発行

当顕彰が多くの皆様のお役に立つことを願い、顕彰制度の概要とあわせ、対象団体の活動内容などをご紹介する情報誌「Fumi」を発行しています。

*当財団のホームページでPDF版をご覧ください。

以上

2022年度

**児童・少年の健全育成助成 生き生きシニア活動顕彰
助成・顕彰団体決定**

今年度は全国で265団体・1億2,878万円の児童・少年の健全育成助成と
205団体・1,025万円の生き生きシニア活動顕彰を実施します。
財団設立からの累計(1979年～2022年)は、17,206団体・90億円になります。

北海道では、児童・少年の健全育成助成

恵庭リトルシニア球団 はじめ 8 団体が
決定いたしました。

生き生きシニア活動顕彰 3団体 が決定いたしました。

1979年の助成開始から44年の累計は

北海道内 459団体 2億8,435万円 となりました。

2022年5月

公益財団法人 日本生命財団

この件に関するお問い合わせ先

〒541-0042 大阪市中央区今橋3-1-7

日本生命財団 助成事業部

TEL: 06 (6204) 4014

FAX: 06 (6204) 0120

日本生命財団は、日本生命保険相互会社が創業90周年を迎えるに当り、より継続的かつ普遍的な社会貢献を行うため1979年に設立された助成型財団です。

以来「人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資すること」を目的として、児童・少年の健全な育成、高齢社会福祉、環境問題などの分野を中心に助成活動を行っております。

ホームページ <http://nihonseimei-zaidan.or.jp>

北海道への助成累計は459団体——2億 8,435万円になりました

日本生命財団は、1979年の設立以来、児童・少年の健全育成に取り組んでいる団体に対して、活動に必要な物品を助成してまいりました。

児童・少年の健全育成助成
今年度は8団体に406万円を助成

また、元気で活力に満ちた高齢者が主体となって地域貢献活動を行う団体を顕彰しております。

生き生きシニア活動顕彰
今年度は3団体を顕彰

～助成・顕彰団体への目録贈呈式を全国の都道府県で開催～

目録贈呈式を次のとおり開催いたします。

日 時	6月2日(木) 午後1時30分～
場 所	ニューオータニイン札幌 2階 北斗の間
出席者	受贈者：11団体 北海道：副知事 小玉 俊宏 様 財 団：日本生命理事札幌支社長 加藤 雅敏 理事長 甲斐 啓史